

令和3年度地域公共交通計画の評価結果 概要（全体）

西尾市地域公共交通活性化協議会 （西尾市）

平成25年4月17日 設置

平成26年3月31日 西尾市地域公共交通計画策定
（計画期間：平成26年4月～平成31年3月）

平成28年6月24日 西尾市地域公共交通計画-改訂版-策定
（計画期間：平成28年6月～平成33年3月）
※～令和4年3月に期間延長

令和4年1月19日 令和3年度評価結果送付

1) 地域公共交通体系の将来像

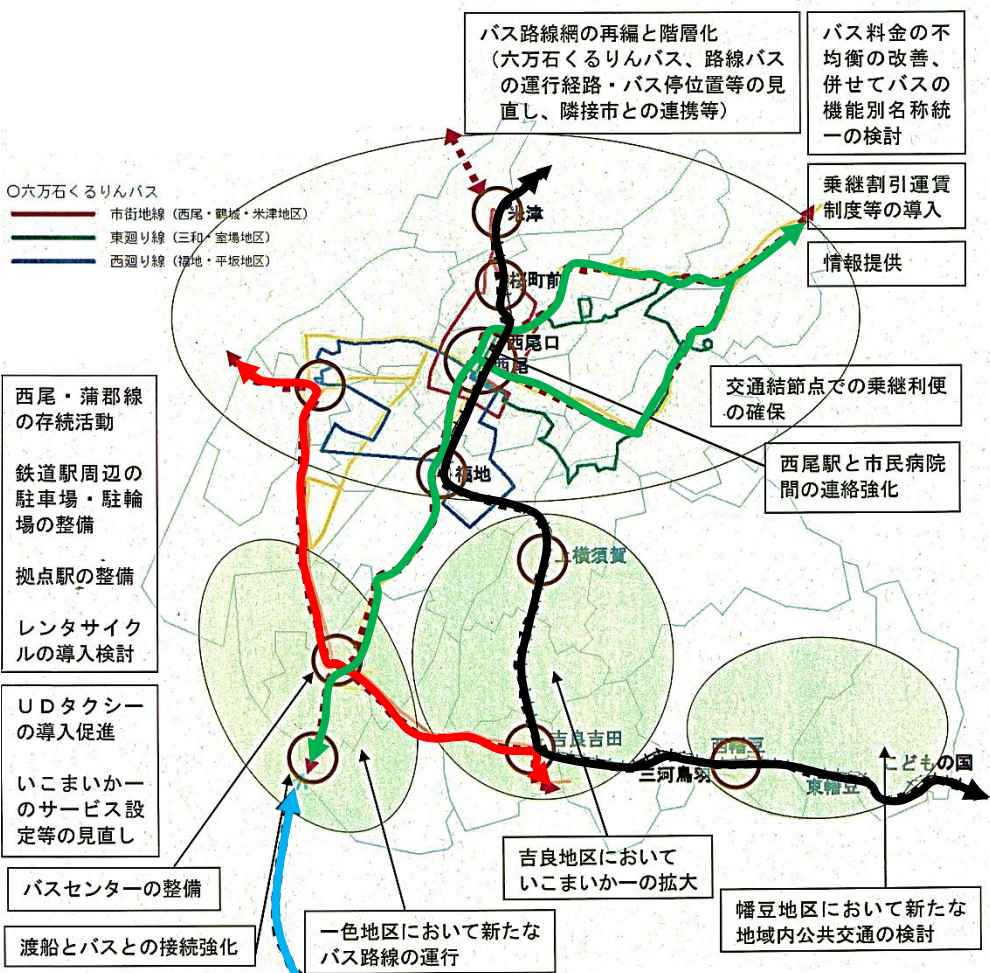
◎日常生活に必要な公共交通が効率的に確保され、便利で安心して暮らせるまち、地域の交流と活性化を実現できるまち

2) 西尾市の地域公共交通の基本方針

- ①市民の暮らしに必要な最低限の移動ができるようにします
- ②市内に人の流れをつくり出します
- ③みんなで公共交通を守り育てる体制をつくります
- ④計画の進捗状況を評価し、定期的に見直します

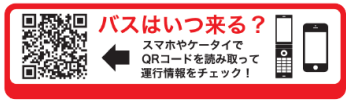
3) 計画期間

平成28年度～令和3年度



幹線系統	
↔	名鉄西尾線・蒲郡線 (安城市～西尾市～蒲郡市)
↔	ふれんどバス (幹線補助、西尾市～碧南市)
↔	名鉄東部交通バス (幹線補助、旧一色町～西尾市～岡崎市)
↔	佐久島渡船 (佐久島行船乗り場～佐久島)

実施事業	概要	実績等												
バス交通の再編	- 日常生活に必要な移動手段を確保し交通弱者の外出機会を保障するため六万石くるりんバスを3路線から8路線に拡大 - 路線バスが廃止になった地域をカバーし通勤通学の足を確保 - 市内バス運賃を200円均一とするわかりやすい運賃体系に統一	- 令和2年4月再編（廃止路線を統合した再編かつサービス圏域の拡大など） - 再編対象路線のバス利用者数 R1年度 六万石くるりんバス 3路線 115,640人 名鉄東部交通バス 2路線 104,273人 R2年度 六万石くるりんバス 8路線 161,684人 - 拡大路線では買い物利用が多く、路線バス代替路線では通勤通学利用が多い 												
いこまいかのサービス設定等の見直し	- コミュニティバスのない吉良、幡豆地区において、自宅から商業施設・医療施設などへ直接輸送 - コミュニティバスのある西尾、一色地区では、小学校区内の拠点的なバス停まで輸送	- 令和2年4月実施 デマンド型→タクシー補助方式へ転換 予約利便性向上や運行事業者の拡大を実現（事業者数1社→4社） - 吉良、幡豆地区において地区公共交通協議会との協働により目的地拡大を実施 <table><tr><td>利用人数</td><td>吉良</td><td>幡豆</td><td>西尾・一色</td></tr><tr><td>R1年度</td><td>1,948</td><td>24</td><td>282</td></tr><tr><td>R2年度</td><td>2,196</td><td>599</td><td>330</td></tr></table>	利用人数	吉良	幡豆	西尾・一色	R1年度	1,948	24	282	R2年度	2,196	599	330
利用人数	吉良	幡豆	西尾・一色											
R1年度	1,948	24	282											
R2年度	2,196	599	330											
新型コロナウイルス対策	コミュニティバス車内・渡船へ抗菌コーティングを実施  	- R2年 9月 1回目実施（コミバス、渡船） - R3年11月 2回目実施（コミバス） - 乗降口に「抗菌コーティング実施済み」のステッカーを貼付し乗客へPR												
出前講座、乗り方講座の実施	民生児童委員や高齢者などを対象に、バス・いこまいかの利用講座を実施	- R2年度 3回 68人 - 講座の後日、参加者がバスを利用したおでかけを実施 												

実施事業	概要	実績等
インターネット上における運行情報の提供	グーグルマップをはじめとする乗換え検索サービスでバス運行情報を提供	・GTFSを整備し、市内バス交通はすべてグーグルマップで検索可能 ・コンテンツプロパイダ（NAVITIME、ジョルダン、駅すぱあと）へ情報提供
バス位置情報・混雑情報の提供	遅延情報、混雑情報を提供するバスロケーションシステムを導入 	・令和3年4月から運用 ・バス待ち時の不安を低減 ・コロナウイルス感染防止策への寄与 ・国庫補助活用
キャッシュレス決済の導入	コミュニティバスへキャッシュレス決済を導入し、スムーズな乗降を実現	・R2年10月からPayPayを導入 ・R3年 8月からLINEPay対応  電子決済利用率 R2年10月～R3年3月 4.6% ・非接触のためコロナ感染防止による安心利用
名鉄西尾・蒲郡線の利用促進	SNSを活用したPR活動 観光客向けガイドマップの作製 	・R3年10月Instagram、Facebookを開設 Instagramフォロワー 2,070人 Facebookフォロワー 130人 ・4種類の沿線ガイドマップを作製し、駅、駐輪場、協賛店舗に設置 ・西尾・蒲郡線PR動画を3本制作

計画の事業効果（利用者数等）に対する評価・検証

- 《目標・指針》
- ・市民の暮らしに必要な最低限の移動の確保

➡移動に不便を感じている市民の割合の減少
ー公共交通を移動の手段に
- ・市内に人の流れを作り出す

➡公共交通機関の利用者数の維持・増加
ーサービスを確保することで、
市民の日常生活の利便性向上・交流促進

《実績値》
①移動に不便を感じている市民の割合（R3.8西尾市総合計画に関する住民アンケート結果）

策定時(H28)	目標値(R2)	実績値(対目標値)	結果(達成率)
39.9%	35%	52.1%(+17.1%)	未達成(73.7%)

②利用者数

	目標値の理由	目標値(R2)	実績値(対目標値)	結果(達成率)
名鉄西尾・蒲郡線	H27から 毎年2%増加	3,673千人	2,595千人（▲1,078千人）	未達成（70.6%）
六万石くるりんバス	H26から 毎年10%増加	198千人	162千人（▲36千人）	未達成（81.8%）
いっちゃんバス	1便5人以上	17,950人	2,724人（▲15,226人）	未達成（6.6%） ※運行当初はポンチョ車両 現在はハイース車両
いこまいかー	H27から 毎年10%増加	1,680人	3,125人（+1,445人）	達成（186.0%）

②利用者数 (続き)

	目標値の理由	目標値(R2)	実績値(対目標値)	結果(達成率)
名鉄東部交通バス (幹線,R2.4一部廃線)	H27実績を 現状維持	443千人	375千人 (▲68千人)	未達成 (84.6%) ※R1は472千人で達成
ふれんどバス (幹線)	H27実績を 現状維持	270千人	242千人 (▲28千人)	未達成 (89.6%) ※R1は304千人で達成
佐久島渡船 (幹線)	H26実績から 毎年5%増加	200千人	186千人 (▲14千人)	未達成 (93.0%) ※R1は304千人で達成

《考察・今後の方針》

- ・①移動に不便を感じている市民の割合については増加傾向であるが、本計画の市民及びバス利用者アンケート調査ではバス再編等により便利になったと評価する声は評価しない声よりも多い。本指標では道路等を含めた不便なども影響することから指標を見直す。
- ・各公共交通の利用者はコロナにより減少したが、通勤通学よりもおでかけ利用が減少したものと思われる。
- ・名鉄西尾・蒲郡線については、観光振興の観点から駅及び周辺の魅力アップにより域外からの誘客を推進する。
- ・コミュニティバスについては、路線ごとに最低維持基準を設け、地区公共交通協議会と連携して活性化を図る。
- ・いこまいかーの目標達成の要因は目的地拡大のほか、デマンド式からの転換による感染リスク減もあると思われる。今後は利用実態、市民ニーズおよび地区公共交通協議会での協議等を踏まえて見直し等を行い、サービスの充実を図る。
- ・名鉄東部交通バスおよびふれんどバスは、現行路線の維持を基本に、利用状況を踏まえて路線や運行サービスを検討し、必要に応じて見直す。
- ・佐久島渡船については、他の公共交通との接続利便性の向上を図り、観光利用による誘客推進を継続する。

課題①	再編した公共交通の周知 コロナ禍と公共交通再編の時期が重なった結果、外出控えなどからコミュニティバスの新規路線やいこまいかーの目的地拡大などについて認知度が低い。 (R3.6市民アンケートでは路線新設等の認知度が26.8%)
対応方針①	・市広報誌や地域の回覧板を活用した周知活動の展開 ・主な利用者である高齢者を中心に乗り方講座を開催 ・コロナ禍における安心安全な公共交通利用をPR
課題②	持続可能なコミュニティバス運行のための利用者確保への取り組み 令和3年6月の市民アンケートでは、現状のサービスを維持あるいは充実を求める意見が68.4%と多く、利用者数を確保し維持していく必要がある。
対応方針②	・地区公共交通協議会と連携した利用促進の取り組みを展開 ・最低維持基準を設定し、原則2年連続でクリアできない場合や沿線地域で利用促進の取り組みが行われない場合は、減便やデマンド化等の縮小を検討する。ただし、コロナ流行による外出自粛の影響については配慮する。
課題③	来訪者が利用しやすい公共交通サービスと情報提供 今後の市内人口は減少の予測であり、生活交通のみでの公共交通利用者の増加を見込むことは難しいため、観光客などの来街者利用を増やす必要がある。
対応方針③	・市内を周遊する観光ルートの構築 ・観光客がわかりやすい公共交通ルートの検索やキャッシュレス決済などのサービス向上 ・GTFSデータの随時更新による正確な運行情報の提供 ・スマートフォンを使った目的地検索と公共交通チケットの入手など利便性の高い仕組みの構築

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

西尾市地域公共交通計画の評価等結果（平成28年6月～令和3年11月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
日常生活で移動に不便を感じている市民の割合を減少 H28 39.9%→H32 35%	・バス交通の再編 ・いこまいかーの制度見直し	地区及び世代が偏らないよう無作為抽出した市民3,000人に対しアンケートを実施 質問形式：「日常で移動に不便を感じている」について、そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・思わないの4択で回答。	・52.1%（R3.8西尾市総合計画に関する住民アンケート調査） ・不便を感じる割合は増加したが、R3.6の公共交通計画作成のための市民アンケート（総合計画のアンケートと同条件で実施）および利用者アンケートでは、バス再編によって「便利になった」との回答が「不便になった」よりも多い。また、市民アンケートにおける同じ質問文では、選択肢が「不便を感じる」、「不便を感じない」の2択で「不便を感じる」と回答した人は17.5%であり、大きく乖離している。理由として、室内での移動や道路の不便さなどの公共交通以外の要因が含まれていると思われる。	・数値としては未達成。ただし調査方法のアンケートでは、「公共交通による移動の不便さ」の正確な把握及び市民の意識が変化し一定の基準で評価することが難しいことから、市民の意識によらない定量的な評価を次年度策定予定の西尾市地域公共交通計画では指標としていく。	目標指標として利用者数、収支率を設定予定。
公共交通機関の年間利用者数の維持・増加 （数値目標については別紙1参照）	・別紙2参照	各事業者の有する乗降データをを用いて計測	・数値については別紙1参照 ・調査年度である令和2年度はコロナ禍と重複したため各公共交通機関の利用者数減に大きく影響を与えた。6月以降は通学利用がある程度回復したが、年間を通しておでかけ利用や観光利用の減少の影響が大きい。 ・いこまいかーの目標達成の要因は目的地拡大のほか、デマンド式からの転換による感染リスク減もあると思われる。	・コロナ禍という厳しい状況により、いこまいかー以外のすべての市内公共交通機関において目標未達成となった。 ・主に減少した理由は感染リスクを避けるためと推測され、通勤通学などよりも日常のおでかけ利用や観光利用が大きいとみられる。感染対策への取組PRや観光周遊ネットワークの形成及び情報提供など、ウィズコロナ&アフターコロナを踏まえた取組による利用者の回復を目指す。 ・コミュニティバスについては、現状のサービスを維持あるいは充実を求める意見が多く、利用者数を確保し維持していく必要がある。そのため、最低維持基準を設定し、原則2年連続でクリアできない及び沿線地域で利用促進の取り組みが行われない場合は、減便やデマンド化等の縮小を検討する。ただし、コロナの影響については必ず考慮する。 ・民間路線バス等についても、事業者と連携した利用者確保への取組が必要である。 ・名鉄西尾・蒲郡線については、観光振興の観点から駅及び周辺の魅力アップにより市外からの誘客を推進する。 ・いこまいかーについて、今後は利用実態、市民ニーズおよび地区公共交通協議会での協議等を踏まえて見直し等を行い、サービスの充実を図る。 ・名鉄東部交通バスおよびふれんどバスは、現行路線の維持を基本に、利用状況を踏まえて路線や運行サービスを検討し、必要に応じて見直す。 ・佐久島渡船については、他の公共交通との接続利便性の向上を図り、観光利用による誘客推進を継続する。	

	目標値の理由	目標値(R2)	実績値(対目標値)	結果(達成率)
名鉄西尾・蒲郡線	H27から毎年2%増加	3,673千人	2,595千人 (▲1,078千人)	未達成 (70.6%)
六万石くるりんバス	H26から毎年10%増加	198千人	162千人 (▲36千人)	未達成 (81.8%)
いっちゃんバス	1便5人以上	17,950人	2,724人 (▲15,226人)	未達成 (6.6%) ※運行当初はボンチョ車両 現在はハイエース車両
いこまいカー	H27から毎年10%増加	1,680人	3,125人 (+1,445人)	達成 (186.0%)
名鉄東部交通バス (幹線, R2.4一部廃線)	H27実績を現状維持	443千人	375千人 (▲68千人)	未達成 (84.6%) ※R1は472千人で達成
ふれんどバス(幹線)	H27実績を現状維持	270千人	242千人 (▲28千人)	未達成 (89.6%) ※R1は304千人で達成
佐久島渡船(幹線)	H26実績から毎年5%増加	200千人	186千人 (▲14千人)	未達成 (93.0%) ※R1は304千人で達成

取り組み	概要	実績等												
バス交通の再編	・六万石くるりんバスを3路線から8路線に拡大 ・路線バスが廃止になった地域をカバー ・市内バス運賃を200円均一とするわかりやすい運賃体系	・令和2年4月再編 ・六万石くるりんバス利用者数 R1年度 115,640人 R2年度 161,684人												
いこまいかーのサービス設定等の見直し	・コミュニティバスのない吉良、幡豆地区において、自宅から商業施設・医療施設などへ直接輸送 ・コミュニティバスのある西尾、一色地区では、小学校区内の拠点的なバス停まで輸送	・令和2年4月実施 デマンド型→タクシー補助方式へ転換 予約利便性向上や運行事業者の拡大を実現 (事業者数1社→4社) ・吉良、幡豆地区において地区公共交通協議会との協働により目的地拡大を実施 <table><tr><td>利用人数</td><td>吉良</td><td>幡豆</td><td>西尾・一色</td></tr><tr><td>R1年度</td><td>1,948</td><td>24</td><td>282</td></tr><tr><td>R2年度</td><td>2,196</td><td>599</td><td>330</td></tr></table>	利用人数	吉良	幡豆	西尾・一色	R1年度	1,948	24	282	R2年度	2,196	599	330
利用人数	吉良	幡豆	西尾・一色											
R1年度	1,948	24	282											
R2年度	2,196	599	330											
新型コロナウイルス対策	コミュニティバス車内・渡船へ抗菌コーティングを実施	・R2年9月 1回目実施 (コミバス、渡船) ・R3年11月 2回目実施 (コミバス) ・乗降口に「抗菌コーティング実施済み」のステッカーを貼付し乗客へPR												
出前講座、乗り方講座の実施	民生児童委員や高齢者などを対象に、バス・いこまいかーの利用講座を実施	・R2年度 3回 68人												
インターネット上における運行情報の提供	グーグルマップをはじめとする乗換え検索サービスでバス運行情報を提供	・GTFSを整備し、市内バス交通はすべてグーグルマップで検索可能 ・コンテンツプロバイダ (NAVITIME、ジョルダン、駅すばあと) へ情報提供												
バス位置情報・混雑情報の提供	遅延情報、混雑情報を提供するバスロケーションシステムを導入	・令和3年4月から運用 ・バス待ち時の不安を低減 ・コロナウイルス感染防止策への寄与 ・国庫補助金活用												
キャッシュレス決済の導入	コミュニティバスへキャッシュレス決済を導入し、スムーズな乗降を実現	・R2年10月からPayPayを導入 ・R3年 8月からLINEPay対応 <table><tr><td>電子決済利用率</td></tr><tr><td>R2年10月～R3年3月 4.6%</td></tr></table> ・現金との非接触によるコロナ予防効果	電子決済利用率	R2年10月～R3年3月 4.6%										
電子決済利用率														
R2年10月～R3年3月 4.6%														
名鉄西尾・蒲郡線の利用促進	SNSを活用したPR活動 観光客向けガイドマップの作製	・R3年10月Instagram、Facebookを開設 Instagramフォロワー 2,070人 Facebookフォロワー 130人 ・4種類の沿線ガイドマップを作製し、駅、駐輪場、協賛店舗に設置 ・西尾・蒲郡線PR動画を3本制作												